

スーパーデイ・デイサービス ようざんミニ事例集

特技を活かしたケアで 自宅での役割を取り戻したケース

認知症だから何も出来なくなってしまうのではありません。

要旨:A様(女性・要介護度3)

10年前より認知症になり、2年前に新築した家を自宅と認識出来ず近所を徘徊されるようになり、ご主人も心配で外出も出来ず困られていましたが、傾聴と特技を生かすケアを実践した結果、家でもデイでも役割を生き生きとこなすようになりました。



近所をあてもなく徘徊されるA様に、ご主人様は心配で仕事にも行けず困っておられました。ちょうどその頃手元に届いたようざんのチラシをご覧になり、朝早くから夕食まで面倒をみてくれるデイサービスに関心を持ち、「ぜひ、話を聞いてみたい」と在宅介護支援センターに相談に行かれ、相談を受けた支援センターの職員の方も「長時間面倒をみてくれるようざんをご夫婦にご紹介したい」と双方の思いが合致し、見学に来られ、利用が始まりました。

ご利用当初は、通う事とようざんで時間を過ごすことに慣ず到着して直ぐ「帰りたいんだけど・・・」や、時には「家にいる父の事が心配だから帰りたい」と涙ながらに職員に話す姿が見られました。その度に、お話を聞き、散歩に出かけ、得意の習字をして頂く事で気持ちを落ち着かせ帰りの時間まで過ごして頂く日々が続きました。

一ヶ月が過ぎると、ようざんの利用に慣れ「何か手伝う事があ

ポイント!

- ◎職員配置が1日5, 6名配置して手厚い為、1対1の個別ケアが実現できる。
- ◎認知症に特化したアセスメント行い、その人の背景を全職員が把握しケアに取り入れている。
- ◎利用定員が12名と少なく利用者1人ひとりが役割を持ち主役になれる。
- ◎残存能力を活かし役割を持って過ごして頂くので、自宅でもできる事が増える。
- ◎認知症の勉強会を定期的に行い全職員が適切な認知症ケアを行える。

今回の事例はスーパーデイようざん貝沢、高橋が紹介させて頂きました。



る？」と尋ねる積極的な言動に驚かされました。職員がお手伝いをお願いする事には、嫌な顔一つせず快く引き受けて下さるのでこの日から食器洗い、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、おやつ作りでの調理を担当して頂きました。お手伝いをしてる姿は生き生きとし、素敵な笑顔が増えて行きました。

そんなある日、担当のケアマネージャーさんから嬉しい報告がありました。A様のご自宅を訪問した際、誰に頼まれたわけでもなく、自ら包丁を手に梨を剥き振る舞って下さったと。その光景にご主人と共に感激のあまり顔を見合わせて言葉にならなかつたうです。

ご主人にとって“何も出来なくなってしまった”A様だったので感慨深く、それからは以前のようにご自宅でも食器洗いや洗濯物干しをし、これからも出来そうなことを頼んでみるとおしゃつていました。

ご自宅での役割は継続されているようで、デイサービスご利用中も勿論さまざま場面でお手伝いをしていただいています。これからも、A様がA様らしくご自宅で生活して頂けるようご本人の持つ特技を生かせるケアで私たちもお手伝いをさせて頂きます。